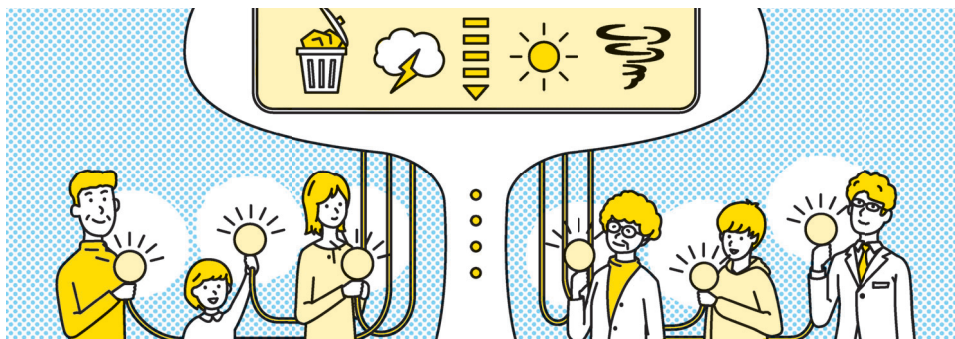


人類が等しく エネルギー不足・食料不足に 悩まなくなる

これまで見逃されてきたエネルギー・食料が有効かつ安価に活用されるようになる。

たとえば、台風や地震からエネルギーを取り出したり、既存のエネルギーを余すところなく使い切ることができるようになる（エネルギーロス・フリー）。また、花木や石、あるいはゴミなどを食料に変換することも可能になる。それらの技術が安価に、且つ容易に利用できるようになることで、たとえば失敗国家（failed state）においてさえも、人々のエネルギーや食料に対する需要が満たされるようになる。



変化のポイント
（これまで）

エネルギーや食料は
有限であり、その使用は
抑制的にならざるを得ない

変化のポイント
（これから）

エネルギー循環率の向上により、
多くの人が我慢することなく
それを消費できる

技術的・
社会的な課題
（研究課題を含む）

- 自然エネルギーを活用したサービス開発。
- エネルギー・食料変換の基礎研究拡充。
- 天気の抑制・促進ができる天気統括センターの設立。
- 人工肉に対する受容性拡大。
- 食料変換トレーサビリティの確保。
- 途上国や失敗国家に対する国際社会の有効な支援。
- エネルギー・食料供給に関する新たなテクノロジーの開発。
- エネルギーの供給・消費の仕組み作りのための基礎的研究。

大学に期待
される役割
（研究以外）

- 省エネ技術の開発、エネルギー消費のリテラシーを教育する場。